

## ナガコガネグモ

今年も美しい巣を張った、「コガネグモ」。興味のある人は、探してみてください。運がいいと健在かもしれません。(ここ数日の雨風でいなくなっていなければいいのですが・・・) 昨年も、数人の中で話題になった、美しい模様のあるクモの巣が、今年も、職員玄関向い、中庭に面した窓の外、に張られました。巣の中心にいるクモは、草色に近い、細身のクモです。



図鑑で調べ、「ナガコガネグモ」の「オス」ではないか、と私の見立てです。あれ？なぜ「オス」だと私は考えたのでしょうか？ A オスらしく、大きかったから。B オスらしく、模様が派手だったから。C オスらしく、小さかったから。答えは・・・「C」です。動物の「オス」「メス」は、一般的に「オス」の方が大きく、派手な傾向がありますね。ところが、「昆虫」等の世界では、「オス」が「メス」より小さいことは、よくあることです。何しろ、「メス」は、卵を産まなければならないので、いろいろしっかりしているのです。さて、「クモ」(ちなみに、「クモ」は、「昆虫」では、ありませんね。「ザトウムシ」のところでも紹介しました。脚の数が・・・)の世界もご多分に漏れず(ごたぶんにもれず 意味は？ A 多分 B 多くのものから漏れて C 同様・・・答えはC です)。「メス」の方が大きく、派手なきらいがあります。それには、「オス」には、「オス」なりの命がけな事情が関係しているのかもしれませんが。「クモ」は、交尾の際、かなりの頻度で「オス」を餌にしてしまいます。(同様な習性をもつ昆虫は？ 例えば、カマキリ です。) えっ！パートナーをですか？はい、そうです。クモにとって、パートナーなどというロマンチックな概念は毛頭ない(もうとうない 意味は？A 全くない B 頭の中だけ C 毛が無い。・・・答えはA です)です。ただただ、「卵を産むための」栄養源です。なんという合理性！ですから、「オス」は、機嫌を損ねないように、種によっては「プレゼント(もちろん餌)」を渡し、「メス」がそちらに気を取られているすきにアタックするものまでいます。それでも、「メス」に気づかれてしまったら・・・。ちなみに、「ナガコガネグモ」のタイムリミットは、10秒足らずとか。まさに、命がけです。(最初から、目立った大きさ、派手さでは、「メス」には「ウエルカム！ご飯」にしか見えないかもしれませんね。)

さて、「美しい巣」は、どんな巣でしょう？(そもそも、「クモの巣」は美しいですよ！知らぬ間に顔や手足が引っ掛からなければ・・・。雨のしずくが、均等に揺れるさまは、まさに「繊細なレース」、芸術的です)。「巣」自体は、特段珍しくありませんが、その中央に「白帯 はくたい」と呼ばれる、「美しい白の十字」が太くつけられています。場合によっては「隠れ帯」とも呼ばれるそうですが、その効果は諸説あり、はっきりしていません。ただ、白井中の「白帯」に限っては、まさに、「隠れ帯」。「ナガコガネグモ」が、その形に脚を伸ばし、見事に重なっていましたから！皆さんも、探してみてください！「コガネグモ」自体は、どこにでもいる「クモ」なので、いろいろな「白帯」が見られるかもしれませんよ！そして、「クモの巣」を探すには、雨上がりが一番。何しろ、「美しいしずく」で、「透明マント」の正体がばれてしまっていますから！雨上がりもまた楽し！です。